

腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 施設基準を取得いたしました

当院では子宮体癌に対する症例実績等を満たしたことから、
令和5年7月より「腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術」の施設基準を取得いたしました

腹腔鏡手術は、開腹手術と比べて傷が小さいため、整容性に優れ、痛みが少なく、術後の回復が早いという利点があります。また、鏡視下手術では近接拡大視による繊細な操作が可能となります。

早期の子宮体癌に対する腹腔鏡手術は、開腹術と比較し再発率や生存率においてはほぼ同等であり、入院期間や術後合併症の発症率は有意に低いと報告されています。本邦でも早期の子宮体癌に対する腹腔鏡手術が保険収載され、各施設で導入されるようになりました。

本術式の適応となるのは、類内膜腺癌G1-G2で筋層浸潤が1/2未満である「子宮体癌ⅠA期」に対する手術です。子宮体癌に対する腹腔鏡手術を開始したことにより、子宮体癌の患者さんにより広い選択肢で適切な治療を受けていただくことが可能となりました。

将来的には、現在行っている良性子宮疾患に対するロボット支援下手術を子宮悪性腫瘍手術にも応用していきたいと考えております。

医療連携の皆様におかれましては、今後も貴重な症例の御紹介、よろしくお願い申し上げます。

名古屋掖済会病院 産婦人科 部長 清水 顕



公益社団法人 日本海員掖済会
名古屋掖済会病院



所在地 〒454-8502

愛知県名古屋市中川区松年町4-66

サイト <https://www.nagoya-ekisaikaihosp.jp/>



お問い合わせは医療連携室まで

052-652-7954

営業時間：平日8:20～19:00